

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

不正が発生したら早期に公表する企業風土 山口 利昭 (弁護士・公認不正検査士)

1. 経営者には、大株主や金融機関から業績向上に向けてのプレッシャーが常にのしかかる。とりわけ業績が芳しくない場合には、経営責任の追求に対す不安もよぎる。したがって経営者は、次第に「合法的な範囲において、できるだけ会社の数字をよく見せる」ことを優先するようになる。粉飾か否かの明確な線引きが困難な中で、コンプライアンスをはかりにかけることにより、「粉飾を容認する企業風土」が醸成されていく。
2. そうなると、「社長案件については内部統制の例外を許容する」「業績のよい子会社のチェックを甘くする」といった社内ルール違反が生まれ、誰もこれに異議を唱えなくなる。これが「不祥事の芽」となる。社内ルール違反に誰も異を唱えないうちに、経済的合理性のある取引だったものが、次第に合理性のない取引に変わる。たとえば手数料収入が見込めるスルー取引が、いつしか架空循環取引に変わる。ここにおいて誰もが粉飾と理解できるような一次不祥事が発生するに至る。
3. 粉飾を容認する企業風土ができ上がっているために、粉飾の実行者ですら、悪いことは知りつつも、「業績が上がらなければ会社自体が倒産してしまうから」といった理由で粉飾を正当化してしまう。社内で会計不祥事が発生したとしても、これを早期に発見し、公表すれば大きな問題には発展しない。問題は、知っているも知らないふりをする、おかしいと感じていても誰も口には出ない行動が社内に蔓延することだ。

(参考:「週刊東洋経済」2013年5月18日号)

経営者のための理念・哲学

身体も心も才能も天からの授かり物

立川 昭二 (北里大学名誉教授)

1. 江戸前・中期の儒学者、博物学者、教育家である貝原益軒 (1630~1714 年) が、著わした「養生訓」に次の言葉があります。「人の身は父母を本とし、天地を初とす。天地父母のめぐみをうけて生れ、又養われたるわが身なれば、わが私の物にあらず。天地のみたまもの、父母の残せる身なれば、つつしんでよく養ひて、そこなひやぶらず、天年を長くたもつべし。
2. これは「養生訓」の書き出しですが、「私の物にあらず」とは身体も、心も、才能もすべて天からの授かり物、私物ではないという意味です。そういう考えを持っていると、寿命が段々尽きていったとしても「これは授かりものなのだから、もとに戻せばいいだけだ」と思って安心立命できるわけです。それも「養生訓」の大切な精神だと思います。

(参考:「致知」:2013年8月号)

新規成長分野

空きスペースを活用した「超小型カフェ」

1. ネスレ日本とキーコーヒーが喫茶店の新業態開発に注力し始めた。空きスペースなどを活用した超小型店の新規参入を促進。大手チェーンやファーストフードなどに「小回り」で対抗する。今年5月から、新たに喫茶店を開業したい企業や個人事業主に対し、「プロケア」と呼ばれる世界共通の支援サービスを提供し始めた。
2. 事業主はネスレに毎月1万5750円を支払えば、新型コーヒーマシンを貸し与えられ、機械の定期メンテナンスも受けられる。貸与する新型機種「ネスカフェミラノ」は今年に入って約400台設置しており、年内500台が目標。「ネスカフェミラノ」を設置した事業主の約6割は惣菜店やバー、アイスクリームなどで、残り4割は書店や雑貨店といった非飲食業者が占める。空きスペースを有効活用しているのがうかがえる。キーコーヒーは新業態「キーズカフェ」の全国展開で、現在13店舗から今年度中に30店舗へ拡大する。特徴は、標準店でわずか3坪(約9.9㎡)という小ささだ。

(参考:「日経ビジネス」2013年6月17日号)

古典に学ぶ

愚者の心 (その2)

(解説) 人々はみな意欲に満ちあふれている。だがわたしだけはボンヤリと、すべてを忘れはてている。わたしの心は愚者の心だ。何ひとつ分別つかぬ。人々はみな明敏だが、わたしだけは暗愚だ。人々は決断力に富むが、わたしには何ひとつ分明なものはない。定めなくたゆたう海、あてどなく吹く風、それがわたしの姿である。人々はみな有能だが、わたしだけは木偶に等しい。わたしだけが人々から離れて、母なる自然のふところに抱かれようとする。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)